

第 章

教 育 目 標 の 達 成 度 と 教 育 効 果

第 章 教育目標の達成度と教育効果

1. 単位認定について

[現状の説明]

図表 17 に 2004 年度単位認定状況を示す。

図表 17 短大専攻科における単位認定の状況表 (2004 年度)

科目名	授業形態	評価方法			履修人員	単位習得状況		最終評価(人数)							
		試	レ	平		人数	%	秀	優	良	可	不可	欠席		
音楽史特論 (鍵盤音楽史)	講義				6	6	100	6							
音楽史特論 (鍵盤音楽史)	講義				5	5	100	5							
ピアノ初歩教材研究	講義				4	4	100	1	1	2					
音楽療法(応用)	講義				9	9	100		2	7					
吹奏楽指導法	講義				14	14	100	3	1	6	4				
ポピュラー音楽概論	講義				14	14	100	1	2	8	3				
音楽史特論 (リート史)	講義				1	1	100					1			
音楽史特論 (リート史)	講義				1	1	100		1						
音楽史特論 (オペラ史)	講義				1	1	100		1						
音楽史特論 (オペラ史)	講義				6	2	33.3			1	1	2	2		
音楽史特論 (室内楽)	講義				5	5	100	1	1	2	1				
音楽史特論 (室内楽)	講義				4	2	50			2				2	
音楽史特論 (管弦楽史)	講義				11	11	100		6	4	1				
AV機器概論*	講義				17	17	100	6	6	2	3	0	0		
音楽史特論 (ジャズ音楽論)	講義				6	4	66.7	1	1		2	2			
器楽アンサンブルS	演習				3	3	100		3						
ジャズアンサンブル	演習				1	1	100			1					
コンサート・プロデュース	演習				30	30	100	11	8	9	2				
外国語S (ドイツ語)	演習				1	1	100				1				
音楽療法(実践)	演習				9	7	77.8			7				2	
外国語S (英語)	演習				3	3	100			1	2				
吹奏楽SB	演習				7	7	100	3	1	2	1				
ダンス演習S	演習				2	0	0								2
舞台製作実習S	演習				2	2	100	1	1						
オーケストラ	演習				2	2	100	2							
ダンス演習S	演習				3	2	66.7		2					1	
合奏(A)S【管打】	演習				7	7	100	5	2						
室内楽研究【弦-Vn. Va. Vc. Cb】	演習				1	1	100		1						
ポピュラー音楽研究S	演習				4	4	100	4							
外国語S (英語)	演習				2	0	0								1(1)
外国語S (英会話)	演習				21	16	76.2	2	3	3	8	5			
日本歌曲演習	演習				3	3	100	2		1					
作品分析	演習				3	3	100	1	2						
ドイツリート演習	演習				1	1	100	1							
外国語S (英語)	演習				1	1	100			1					
外国語S (イタリア語)	演習				1	0	0							1	
ピアノ作品構造研究	演習				4	4	100	1	1	2					
弦楽作品構造研究	演習				6	6	100	1	2	3					
外国語S (英語)*	演習				6	5	83.3		1	4			1		
ピアノ・アンサンブルA(連弾)	演習				4	4	100	3	1						

試：筆記試験・実技試験、レ：レポート、平：平常点、(数字)：履修を取りやめた学生数

*：複数コマに分かれている授業

科目名	授業形態	評価方法			履修人員	単位習得状況		最終評価(人数)						
		試	レ	平		人数	%	秀	優	良	可	不可	欠席	
室内楽研究【弦-Gu】	演習				5	5	100		4	1				
声楽資料研究	演習				3	3	100	2	1					
声楽アンサンブル	演習				3	3	100	3						
ピアノ・アンサンブルB(2台のピアノ)	演習				4	4	100	4						
デスクトップ・ミュージック編曲法	演習				3	3	100	2		1				
コンピューター音楽演習	演習				11	10	90.9	9	1				1	
マーチング指導法S	演習				5	5	100	3		1	1			
対位法作品研究	演習				2	2	100		2					
器楽編曲法S(ポピュラー)	演習				1	1	100	1						
器楽編曲法S(クラシック)	演習				2	2	100	2						
電子0g・アンサンブル(クラシック)	演習				3	3	100	3						
外国語S(ドイツ語)	演習				1	1	100		1					
外国語S(フランス語)	演習				1	1	100				1			
管弦楽器リペア実習	実習				8	8	100	4		1	1	2		
舞台製作実習S	実習				2	2	100			2				
音楽社会活動実習	実習				9	6	66.7	3	2	1			3	
器楽指導実習	実習				1	1	100	1						
修了研究**					3	3	100	3						
修了研究					4	4	100	4						
修了研究**					3	3	100	2	1					
修了研究*					14	14	100	2	11	1				
修了研究					2	2	100	2						
修了研究**					1	1	100	1						
修了研究					3	3	100	3						

試：筆記試験・実技試験、レ：レポート、平：平常点

*：複数コマに分かれている授業、**：併設教育機関所属教員が担当する修了研究

[自己点検・評価及び長所と問題点]

図表 17 にある様に単位取得状況は妥当な範囲内で特に問題はないと思われる。また、3つに分類された単位認定方法(=評価方法)のうち1つもしくは複数の方法が各科目によって用いられている。それらは各部会で統一された評価基準に則り各科目の教育目標、内容に相応しい単位認定方法がとられている。

[将来の改善・改革に向けた方策]

短大専攻科では専門・実技の更なる研鑽を大きな目標の1つとして掲げている。そこで、特に実技関連科目の単位認定方法については学生の学習意欲を高めていく為にもより具体化、細密化を検討していきたい。

2. 授業に対する学生の満足度

[現状の説明]

2000年度より毎年11月に各専攻の学生全員を対象に短大専攻科の授業内容等に関するアンケートを実施している。それにより学生の授業への満足度を知ることが出来る。また、各授業への出席率でも知ることが出来る。アンケートの回収率は年々低くなって

いるようだが授業の出席率はかなり良いので学生の満足度も良いと思われる。学生の学習意欲の現われとして「第 5 章（5）各専攻科における授業内容・教育方法」のクラス規模において幾つかの授業について出席率を示した。

[自己点検・評価及び長所と問題点]

短大専攻科の教育課程は1年間であり、また少人数の為、より密度の濃い授業形態となっている。授業の中で学生から直接担当教員に要望等を受ける事もあり、各学生とのコミュニケーションが取り易い環境となっている。この事から学生の授業への関心度も高いと思われる。担当教員は学生とのコミュニケーションを活発に行えるため、学生の満足度への配慮は十分なされていると思われる。

[将来の改善・改革に向けた方策]

毎年11月に行われる短大専攻科の授業内容等に関するアンケートの回答率が低い年度がある。今後アンケートを実施する際には、学生がアンケートに積極的に取り組める様な質問内容等の改善が必要と考えられる。担当教員がアンケートの結果を見た時に学生がどういう事を望んでいるのか、或いはどういう事で満足するのか等具体的にわかる様なアンケート内容を検討していきたい。また併設教育機関共通のアンケート実行委員会(2005年度11月から活動開始予定)が活動開始後は積極的に提案を行いたいと考えている。

3. 退学、休学、留年等について

[現状の説明]

2001～2004年度の退学理由及び指導（ケア）の現状を図表18に示す。また、短大専攻科全体及び専攻別の2001～2004年度の退学者等の状況を図表19に示す。

図表18 短大専攻科の退学理由と指導（ケア）の現状

「2001～2004年度の退学理由」

年 度	退学理由
2001	家庭の事情
	経済的理由
2002	身上
	進路変更
2003	身上
	除籍
2004	進路変更

「指導（ケア）の現状」

退学者：	退学に至るまでの学生相談、再入学の案内。
休学者：	休学に至るまでの学生相談。 復学時に履修等に係る特別ガイダンスを実施。
留年者：	履修等に係る特別ガイダンスを実施。

図表 19 短大専攻科及び専攻別の退学者等一覧表

- 短大専攻科全体 -

	2001年度入学	2002年度入学	2003年度入学	2004年度入学
入学者数	27	28	29	31
・うち退学者数	1	4	1	1
・うち休学者数	0	3	0	0
・休学者の内の復学者数	0	1	0	0
・留年者数	0	0	0	0
卒業生数	26	22	28	30

- 専攻別 -

専攻	2001年度入学			2002年度入学			2003年度入学			2004年度入学		
	作曲	声楽	器楽									
入学者数	0	11	16	0	8	20	1	10	18	3	5	23
・うち退学者数		1			2	2		1				1
・うち休学者数					3							
・休学者の内の復学者数					1							
・留年者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
卒業生数	0	10	16	0	4	18	1	9	18	3	5	22

[自己点検・評価及び長所と問題点]

学生相談を学務センターにおいて常時受け付けている。退学・休学、留年の数は少なく特に問題点は見られない。今後も個別に対応していく考えである。

[将来の改善・改革に向けた方策]

退学者・休学者の数は少なく、増加傾向も見られない。修業年数が一年である事も関係していると思われるが、留年者数は2001年度以降現在まで出ていない。退学・休学理由については1つに集中しておらず、また退学・休学をする際に問題が生じた事も無い。そのため、新たな改善・改革は現時点では必要ないといえる。

4. 資格取得の取組み

[現状の説明]

所定の単位数を取得すれば短大専攻科修了時に、学位「芸術学学士」が取得可能である。

本学のエクステンション・センターによる資格取得のための講座が以下のように開かれている。短大専攻科独自の資格取得講座は開設していないが、これらの講座は短大専攻科の学生も受講でき、各学生は自由に興味がある講座を選択し申し込める。

- ・ 各音楽教室（ヤマハ・カワイ・ローランド等）の講師資格取得の準備講座
- ・ パソコン資格取得準備講座
- ・ 音楽指導グレード5級資格取得準備講座
- ・ 音楽指導グレード4級資格取得準備講座
- ・ ホームヘルパー2級養成講座
- ・ 秘書検定2級対策講座

[自己点検・評価及び長所と問題点]

学位の資格取得者は2004年度の報告は無かった。また資格取得のための講座についても2004年度の受講者は無かった。現時点で学生から資格取得についての要望は特に無い。しかし、現在開設されている講座の受講希望者が2004年度について無かった事等から、今後学生が受講を希望する資格はどのようなものか、検討が必要であろう。

[将来の改善・改革に向けた方策]

学生の将来に役立つ資格取得の機会を現在よりも視野を広げて見ていく必要があると思われる。現在開設されている以外に新たに資格取得のための講座を導入していく事も考えたい。

5. 学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価

5-1. 専門就職の状況

[現状の説明]

「第 4 章(4-3) 就職内定率」において、卒業生の就職・進学状況を示すため、ここでは、専門就職についてのみ報告する。専門分野を生かした就職先の一つとして音楽教室が挙げられるが、2004年度では2名のみ就職となった。また卒業生の多くが進学、その他の進路をとっている。本専攻科では主に実技の研鑽・追求が主体となっており、入学生もまたその事を大きな目的としている。その為、卒業後も継続して実技の研鑽・追求を望んでいると言える。このことは、進路として進学する割合が高いことと同時に、本章「(4) 資格取得の取組み」にも示すように、2004年度において資格取得の為の講座の受講者が無かった事にも表れているようである。

[自己点検・評価及び長所と問題点]

短大専攻科で1年間学習したことにより、専門分野に関する研究意欲が深まり、さらなる発展を目指し卒業後も研鑽に励む卒業生が多い。これは将来の音楽活動、就職に結びついていく重要なステップになると考えられる。しかしながら、本章「(4)資格取得の取組み」にも示すように、今後学生が受講を希望する資格はどのようなものか、検討が必要であると考えられる。

[将来の改善・改革に向けた方策]

アルバイト・フリーターという形で独自に音楽活動を続けていこうとする卒業生の割合が高い事からも、将来就職に活かせる資格・免許の取得を希望する学生の増加が予測される。しかしながら、学生にとって1年間という在籍期間において、在学中はどうしても専門分野に時間をできるだけ費やしたいと考える場合が多いようである。現状では特に問題点は見られないが、今後卒業後就職を志望する学生が増える事態を想定し、様々な資格や免許の取得について検討をしていく必要性が考えられる。

5 - 2 . 就職先及び編入校からの評価**[現状の説明]**

就職先および編入先等から卒業生の評価をうける機会が現状ではない。また、編入校での実技試験の試験結果も特に専攻科へ報告されることもない。

[自己点検・評価及び長所と問題点] [将来の改善・改革に向けた方策]

将来的には可能であれば就職先および編入先等からの評価について導入を検討していきたい。特に編入先としては併設の大学部を選択するケースが多く、本専攻科卒業生に対する評価は特別な評価システムを構築することなく可能であると考えられる。就職先からの評価に関しては、その前段階として、次項「(5-3)教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会との連携等」に示すように、卒業生自身からの意見を聴くことが重要といえる。

5 - 3 . 教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会との連携等**[現状の説明]**

併設の短大卒業生(1994年度、1999年度、2004年度)を対象とした「学生時代についてのアンケート」が2005年8月に初めて実施された(詳細は短大における自己点検・評価報告書を参照)。しかしながら、短大専攻科修了学生へのアンケートの実施は今のところ行っていない。また、教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等は、短大専攻科独自のシステムとしては行っていない。

教育の実績や効果を確認するための方法としては同窓会主催のコンサートでの演奏

がある。また、学位「芸術学学士」を取得するためにその成果を見る機会がある。これが卒業生との接触の機会であり教育の実績、効果を確認する機会である。

[自己点検・評価及び長所と問題点]

同窓会が主催する卒業生による演奏会が各地で行われており、卒業生の研究発表の良い機会となっているがこれも教育の成果や効果を確認するための方法・手段が難しい。

学位「芸術学学士」を取得できたかどうかはその実績、効果を確認するのに大変役立つ。また、短大専攻科の今後の発展のためにも必要である。確認のための追跡調査をする体制は必要である。

[将来の改善・改革に向けた方策]

学位「芸術学学士」を取得し易いように大学は協力しなければならないし、卒業生も大学に頼らざるを得ないところがあるので双方協力し合っていく必要がある。そのとき卒業生との接点が出来、その実績、効果を知ることが出来る最も良い機会である。短大専攻科としての卒業生の受け入れ体制が出来ればと思われる。

また、在籍中とは異なる視点からの卒業生による意見は、在籍学生にとって有意義であるばかりでなく、短大専攻科としての将来計画においても重要であると言える。今後の方策として、卒業生に直接意見を求めるか、もしくは卒業生と演奏を通じて共同作業を行なった学生に対して調査するのかを検討する必要があるように思える。

